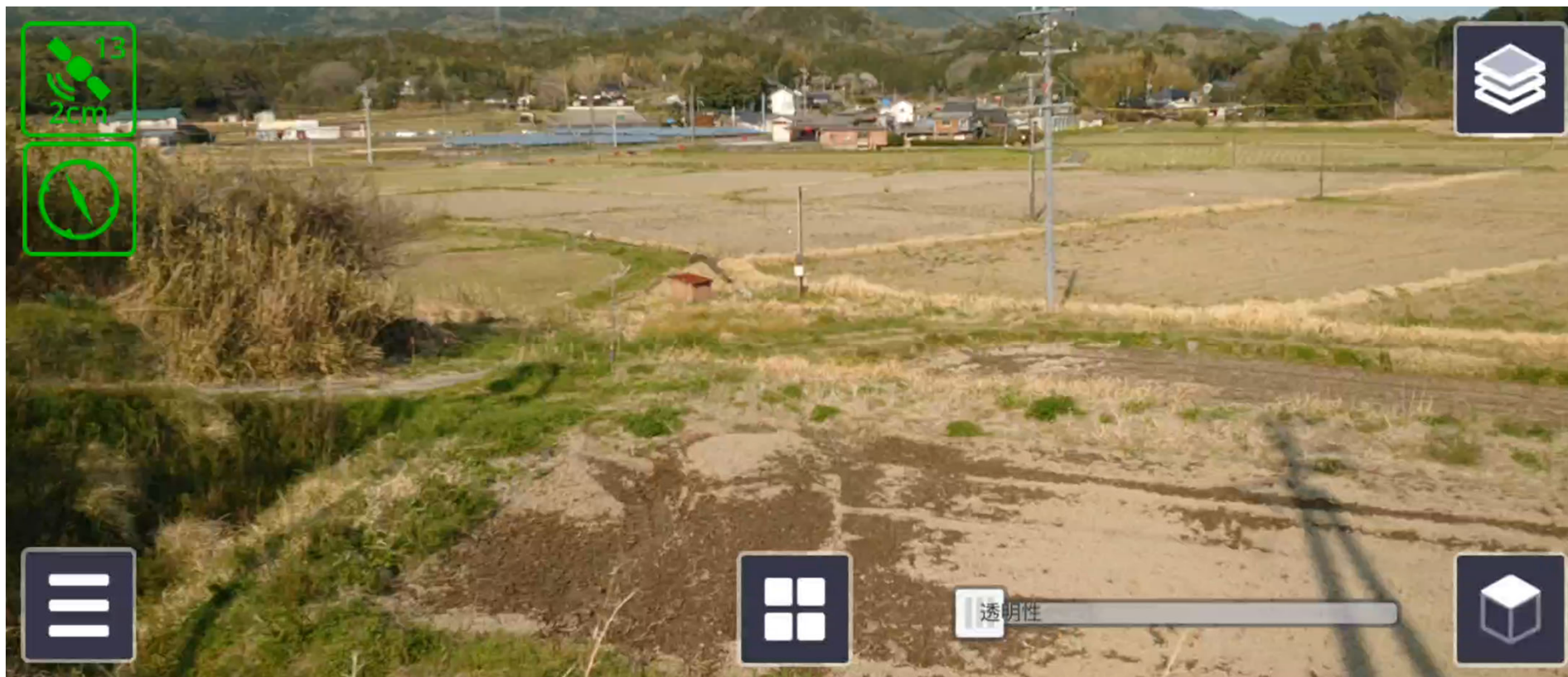


1 情報化施工の視点

(2) AR（拡張現実）システムを活用した地元説明

【地権者等が現地で見ることが出来るAR画像】



※ 操作によって、現地の映像に少しずつ設計データを重ねて表示

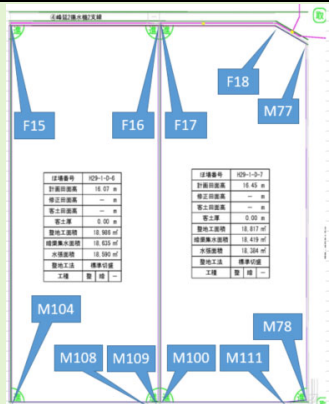
1 情報化施工の視点

(3) 営農への活用

- 情報化施工により得られる3次元座標データを農業者が営農面で活用していくことが期待。
- 具体例としては、情報化施工で得た座標データからのドローンや自動走行農機などの走行経路の設定や、切土・盛土を色分けして示すヒートマップによる営農上の留意点の明確化など。

営農への活用事例（スマート農業への活用）

情報化施工で得られる座標データ



工事座標(平面直角座標12系)		
測点名称	X	Y
F15	-80233.421	-36422.447
M104	-80372.805	-36575.996
M108	-80434.589	-36519.911
M106	-80438.967	-36515.480
F16	-80299.841	-36362.215
F17	-80301.086	-36361.087
M109	-80440.438	-36514.601
M111	-80497.664	-36462.655
M78	-80505.932	-36453.754
M77	-80373.281	-36308.386
F18	-80353.528	-36313.530

ほ場における座標位置

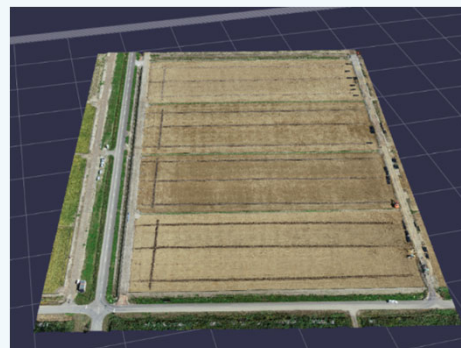
座標データ

走行経路の設定

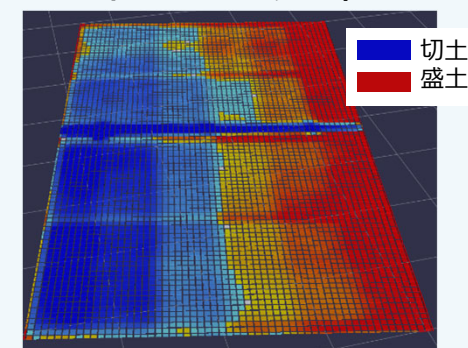


営農への活用事例（生育量・施肥管理への活用）

完成後のほ場



切土・盛土の可視化 (ヒートマップ)



- 沈下や生育ムラ予測など、営農上の留意点が明確化

ドローンや自動走行農機などに活用



ドローン



自動走行農機

資料及び写真提供：(株)砂子組